



平成22年10月期 第2四半期決算短信(非連結)

平成22年5月31日

上場会社名 株式会社くらコーポレーション
 コード番号 2695 URL <http://www.kura-corpo.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成22年6月11日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 田中 邦彦
 (氏名) 南垣内 啓太

上場取引所 東
 TEL 072-368-9401

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年10月期第2四半期の業績(平成21年11月1日～平成22年4月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年10月期第2四半期	34,345	14.9	2,598	78.7	2,740	73.2	1,563	111.0
21年10月期第2四半期	29,878	—	1,454	—	1,581	—	741	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年10月期第2四半期	15,107.64	—
21年10月期第2四半期	7,161.34	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年10月期第2四半期	24,878	15,347	61.7	148,287.21
21年10月期	23,298	14,032	60.2	135,579.57

(参考) 自己資本 22年10月期第2四半期 15,347百万円 21年10月期 14,032百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年10月期	—	0.00	—	2,400.00	2,400.00
22年10月期	—	0.00	—	—	—
22年10月期 (予想)	—	—	—	12.00	12.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

平成22年3月15日開催の取締役会において、平成22年5月1日を効力発生日として普通株式1株につき200株の割合で株式分割することを決議しております。平成22年10月期(予想)の1株当たり配当金については、当該株式分割調整後の内容を記載しております。詳しくは2ページ「(ご参考)1. 株式分割後の配当金の状況について」をご覧ください。

3. 平成22年10月期の業績予想(平成21年11月1日～平成22年10月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	71,238	10.2	5,102	17.3	5,363	17.3	2,979	26.2	143.93

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

平成22年3月15日開催の取締役会において、平成22年5月1日を効力発生日として普通株式1株につき200株の割合で株式分割することを決議しております。平成22年10月期の業績予想の1株当たり当期純利益については、当該株式分割調整後の内容を記載しております。詳しくは2ページ「(ご参考)2. 業績予想について」をご覧ください。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- | | | | | |
|---------------------|--------------|----------|--------------|----------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 22年10月期第2四半期 | 103,499株 | 21年10月期 | 103,499株 |
| ② 期末自己株式数 | 22年10月期第2四半期 | —株 | 21年10月期 | —株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計期間) | 22年10月期第2四半期 | 103,499株 | 21年10月期第2四半期 | 103,499株 |

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、3ページ「1. 経営成績に関する定性的情報」をご覧ください。

(ご参考)

1. 株式分割後の配当金の状況について

当社は、平成22年3月15日開催の取締役会において、平成22年5月1日を効力発生日として普通株式1株につき200株の割合で株式分割することを決議しております。当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の配当状況につきましては以下のとおりになります。

基準日：平成21年10月期 期末12円00銭 年間合計12円00銭

2. 業績予想について

1株当たり(予想)当期純利益は、当該株式分割が期首に行われたと仮定して算出しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、海外経済の改善を受け、輸出・生産が持ち直しの動きをみせているものの、総じて企業業績は低迷が続いており、政府の経済・雇用対策は極めて限定的且つ不確定要素を多く含み、先行き不透明感を強くしていることから、消費持ち直しというには程遠い状況が続いております。

外食産業においても、雇用不安・所得減少を抱える消費者の生活防衛意識は依然強く、外食を手控える傾向に未だ変化の兆しは見えておりません。

このように取り巻く環境の厳しさが続く中、当社は、安全・安心・安価で美味しいものを求める顧客の消費動向が当社の掲げる経営理念”食の戦前帰帰”にマッチするものであり、むしろ追い風であるとの認識で、顧客来店の動機付けを図る様々な取り組みを行ってまいりました。

商品開発面では、一部店舗で導入しておりました、当社自慢の揚げたて『天ぷら』をさらに多くの方々にご賞味いただくため、『100円天ぷら』としてリニューアルの上ご提供し、価格・味ともにご好評をいただいております。店舗で直火で炙って提供する『あぶり寿司』も導入店舗を大幅に拡大、加えて、関西店舗で定番のサイドメニューとして大好評のうどん(自家製ダシ)は、東日本地区の多くのお客様のご要望にお応えして、関東店舗においても順次取扱を開始する等、メニューの見直しも積極的に行っております。

また、当社オリジナルキャラクター『むてん丸』が、ご注文商品をお客様の元へ一直線にお届けする『くら注文レーン』も導入店舗を増やし、より多くのお客様に「楽しい食空間」をご提供できるよう取り組んでおります。

さらに、当社自慢のPB商品を、ご家庭でも手軽にお召し上がりいただけますよう、通販サイトを立ち上げました。インターネットを御覧いただける環境があれば、手軽に利用いただけることから、当社がまだ出店させていたでない地域の方々にも是非ご賞味頂きたいと願い、運営することといたしました。

販売促進面では、平成21年11月から平成22年3月にかけて、大人気のテレビアニメ「ワンピース」及び「プリキュア」とのタイアップキャンペーンを計5回実施いたしました。主人公が当社店舗にて楽しそうに食事している姿を、作者が特別に描き下ろしてくださるなど、希少なグッズの数々をプレゼントする企画で、アニメファンの方々にも当社の商品を味わっていただく絶好の機会となり、予想を上回る反響をいただくことができました。

また、今季より元読売ジャイアンツの松井秀喜選手が移籍された、アナハイムエンゼルスエンゼルスタジアムに当社の広告を掲載いたしました。松井選手がバッターボックスに立たれた後方に、「くら寿司」と当社回転寿司海外1号店である「Kula Revolving Sushi Bar」のロゴが表示されるタイミングもあり、世界中にアピールさせていただいております。

店舗開発につきましては、九州地区の出店をさらに加速させ、北九州市にも開店させていただき、合計8店舗となりました。商圏人口、アクセス、近隣状況等出店候補地を厳選しつつ、より広範な地域のお客様にくら寿司ブランドをお楽しみいただくため、当第2四半期累計期間に西日本で6店舗、東日本で1店舗の計7店舗を新規出店いたしました結果、当第2四半期末の店舗数は、すべて直営店で252店舗(「無添蔵」4店を含む)となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は343億45百万円(前年同期比14.9%増)、営業利益は25億98百万円(同78.7%増)、経常利益は27億40百万円(同73.2%増)、四半期純利益は15億63百万円(同111.0%増)となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期末の資産総額は248億78百万円となり、前事業年度末と比較して15億80百万円の増加となりました。これは、主に新規出店や改装等により積極的に設備投資を行った結果、固定資産が6億17百万円増加したことと、売上増加に伴い現金及び預金が7億31百万円増加したことによるものであります。

負債につきましては、95億31百万円と前事業年度末と比較して2億65百万円の増加となりました。これは、主にリース債務が6億50百万円増加したこと、未払消費税等が1億44百万円減少したこと、長期借入金返済により1億20百万円減少したこと、未払金が1億2百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、利益剰余金の増加により153億47百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが20億31百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが7億81百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが5億18百万円の支出となり、この結果、当第2四半期末の現金及び現金同等物(以下「資金」という)残高は、期首より7億31百万円増加し33億86百万円となりました。

当第2四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において営業活動の結果得られた資金は20億31百万円(前年同期比8.0%増)となりました。これは、主に税引前四半期純利益が27億28百万円となり、減価償却費が7億47百万円あった一方で、未払消費税等の減少が1億44百万円、仕入債務の減少が94百万円、法人税等の支払が10億28百万円あったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において投資活動の結果使用した資金は7億81百万円(前年同期比55.6%減)となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出が5億80百万円、差入保証金の差入による支出が1億29百万円、貸付による支出(建設協力金の支出)が74百万円あったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において財務活動の結果使用した資金は5億18百万円(前年同期は1億87百万円の獲得)となりました。これは、主に配当金の支払が2億45百万円、リース債務の返済による支出が1億52百万円、長期借入金の返済による支出が1億20百万円あったことによるものであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

平成22年10月期の通期業績予想は、売上高712億38百万円、営業利益51億2百万円、経常利益53億63百万円、当期純利益29億79百万円の見通しであり、当初、平成21年12月14日に公表しました通期の業績予想を平成22年5月27日に修正しております。詳細につきましては、平成22年5月27日公表の業績予想の修正に係る適時開示資料をご参照ください。

4. その他

- (1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
該当事項はありません。

5. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年4月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,386,370	2,655,084
原材料及び貯蔵品	375,658	288,060
その他	995,992	851,964
流動資産合計	4,758,021	3,795,108
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	7,832,658	7,616,846
その他(純額)	4,776,431	4,526,947
有形固定資産合計	12,609,089	12,143,793
無形固定資産		
464,382		337,140
投資その他の資産		
関係会社株式	97,905	97,905
長期貸付金	2,914,854	2,939,710
差入保証金	3,031,556	2,926,303
その他	1,003,079	1,058,684
投資その他の資産合計	7,047,396	7,022,604
固定資産合計	20,120,869	19,503,537
資産合計	24,878,890	23,298,646
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,701,272	2,795,705
1年内返済予定の長期借入金	230,000	240,000
未払金	2,130,371	2,232,432
未払法人税等	1,221,530	1,146,885
その他	852,410	855,166
流動負債合計	7,135,585	7,270,191
固定負債		
長期借入金	500,000	610,000
リース債務	1,630,149	1,137,976
その他	265,578	248,128
固定負債合計	2,395,727	1,996,105
負債合計	9,531,312	9,266,296
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,005,329	2,005,329
資本剰余金	2,334,384	2,334,384
利益剰余金	11,007,863	9,692,635
株主資本合計	15,347,577	14,032,350
純資産合計	15,347,577	14,032,350
負債純資産合計	24,878,890	23,298,646

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成20年11月1日 至平成21年4月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成21年11月1日 至平成22年4月30日)
売上高	29,878,789	34,345,067
売上原価	14,479,963	15,922,441
売上総利益	15,398,826	18,422,625
販売費及び一般管理費	13,944,172	15,823,811
営業利益	1,454,653	2,598,813
営業外収益		
受取利息	25,933	29,177
受取手数料	47,801	84,254
為替差益	2,499	1,361
物販収入	47,550	54,994
雑収入	38,083	25,615
営業外収益合計	161,868	195,402
営業外費用		
支払利息	10,447	26,188
物販原価	20,510	24,001
雑損失	3,815	3,732
営業外費用合計	34,773	53,922
経常利益	1,581,747	2,740,293
特別損失		
固定資産除却損	8,359	7,537
店舗閉鎖損失	239,344	4,106
特別損失合計	247,703	11,643
税引前四半期純利益	1,334,044	2,728,650
法人税、住民税及び事業税	460,000	1,152,000
法人税等調整額	132,853	13,024
法人税等合計	592,853	1,165,024
四半期純利益	741,191	1,563,625

(第2四半期会計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期会計期間 (自平成21年2月1日 至平成21年4月30日)	当第2四半期会計期間 (自平成22年2月1日 至平成22年4月30日)
売上高	14,999,844	16,581,197
売上原価	7,174,315	7,585,229
売上総利益	7,825,529	8,995,968
販売費及び一般管理費	7,047,479	7,857,754
営業利益	778,049	1,138,213
営業外収益		
受取利息	13,100	14,479
受取手数料	29,846	44,100
為替差益	13,081	2,349
物販収入	20,691	27,357
雑収入	17,816	15,369
営業外収益合計	94,536	103,656
営業外費用		
支払利息	5,110	13,448
物販原価	8,417	12,067
雑損失	649	1,443
営業外費用合計	14,177	26,959
経常利益	858,408	1,214,910
特別損失		
固定資産除却損	5,876	4,471
店舗閉鎖損失	117,635	2,213
特別損失合計	123,511	6,685
税引前四半期純利益	734,896	1,208,224
法人税、住民税及び事業税	281,000	563,000
法人税等調整額	43,207	△43,527
法人税等合計	324,207	519,472
四半期純利益	410,689	688,752

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成20年11月1日 至 平成21年4月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成21年11月1日 至 平成22年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	1,334,044	2,728,650
減価償却費	576,748	747,481
受取利息	△25,933	△29,177
支払利息	10,447	26,188
固定資産除却損	8,359	7,537
店舗閉鎖損失	239,344	4,106
たな卸資産の増減額(△は増加)	△13,198	△87,598
仕入債務の増減額(△は減少)	105,374	△94,433
未払消費税等の増減額(△は減少)	87,519	△144,597
その他	50,764	△72,696
小計	2,373,469	3,085,460
利息の受取額	4	2
利息の支払額	△10,216	△25,884
法人税等の支払額	△483,276	△1,028,355
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,879,980	2,031,222
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,144,050	△580,728
無形固定資産の取得による支出	△17,857	△19,912
関係会社株式の取得による支出	△97,905	—
貸付けによる支出	△360,969	△74,725
差入保証金の差入による支出	△90,591	△129,225
差入保証金の回収による収入	26,381	24,879
その他の支出	△74,739	△21,518
その他の収入	—	19,460
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,759,732	△781,769
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	430,000	—
長期借入金の返済による支出	△161,250	△120,000
リース債務の返済による支出	—	△152,657
配当金の支払額	△81,506	△245,509
財務活動によるキャッシュ・フロー	187,243	△518,167
現金及び現金同等物に係る換算差額	△84	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	307,407	731,285
現金及び現金同等物の期首残高	593,618	2,655,084
現金及び現金同等物の四半期末残高	901,025	3,386,370

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

(重要な後発事象)

株式分割及び単元株制度導入の件

当社は平成22年3月15日開催の取締役会決議に基づき、平成22年5月1日付で、下記のとおり株式分割及び単元株制度導入を行っております。

株式分割及び単元株制度採用の目的

当社株式の投資単位当たりの金額を引き下げることにより、当社株式の流動性の向上と投資家層の拡大を図ることを目的として株式分割を実施いたしました。また、売買単位の集約化に対応し、投資家の利便性を向上する事を目的として、100株を1単元とする単元株制度を採用いたしました。

なお、この株式分割及び単元株制度の採用により、投資単位は実質的に2分の1となりました。

(1) 株式分割

①分割方法

平成22年4月30日(金曜日)を基準日とし、普通株式1株につき、200株の割合をもって分割しました。

②分割により増加する株式数

株式分割前の当社発行済株式総数	103,499株
今回の分割により増加する株式数	20,596,301株
株式分割後の当社発行済株式総数	20,699,800株
株式分割後の発行可能株式総数	80,000,000株

③株式分割の効力発生日

平成22年5月1日

(2) 単元株制度の採用

①新設する単元株式の数

単元株制度を採用し、単元株式数を100株としました。

②新設の日程

平成22年5月1日

なお、当該株式分割が前期首に行われたと仮定した場合における(1株当たり情報)の各数値はそれぞれ以下のとおりであります。

1株当たり純資産額

当第2四半期会計期間末 (平成22年4月30日)	前事業年度末 (平成21年10月31日)
1株当たり純資産額 741.44円	1株当たり純資産額 677.90円

1株当たり四半期純利益金額等

前第2四半期累計期間 (自平成20年11月1日 至平成21年4月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成21年11月1日 至平成22年4月30日)
1株当たり四半期純利益金額 35.81円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益金額 75.54円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

前第2四半期会計期間 (自平成21年2月1日 至平成21年4月30日)	当第2四半期会計期間 (自平成22年2月1日 至平成22年4月30日)
1株当たり四半期純利益金額 19.84円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益金額 33.27円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。